

2018年11月9日

上場取引所 東 福

上場会社名 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

コード番号 2579 URL <https://www.ccbi-holdings.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 民雄

問合せ先責任者 (役職名) 財務本部 コントローラーズ (氏名) 鶴池 正清 TEL 03-6896-1707  
シニアグループ統括部長

四半期報告書提出予定日 2018年11月13日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第3四半期の連結業績 (2018年1月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	741,254	14.9	32,016	△17.1	31,196	△17.6	13,936	△41.4
2017年12月期第3四半期	645,088	82.4	38,606	102.9	37,876	106.7	23,797	123.9

(注) 包括利益 2018年12月期第3四半期 14,199百万円 (△46.8%) 2017年12月期第3四半期 26,707百万円 (228.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第3四半期	71.83	-
2017年12月期第3四半期	143.17	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第3四半期	835,541	576,548	69.0
2017年12月期	883,918	627,485	70.9

(参考) 自己資本 2018年12月期第3四半期 576,107百万円 2017年12月期 627,058百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	-	22.00	-	22.00	44.00
2018年12月期	-	25.00	-		
2018年12月期 (予想)				25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年12月期の連結業績予想 (2018年1月1日～2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	965,300	10.6	27,000	△33.5	25,200	△36.8	9,000	△64.3	46.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年12月期3Q	206,268,593株	2017年12月期	206,268,593株
② 期末自己株式数	2018年12月期3Q	19,095,922株	2017年12月期	2,015,532株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2018年12月期3Q	194,004,590株	2017年12月期3Q	166,211,884株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、  
 [添付資料] 4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

目 次

頁

添付資料

1.	当四半期決算に関する定性的情報	
	(1) 連結経営成績に関する説明 .....	2
	(2) 連結財政状態に関する説明 .....	3
	(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2.	四半期連結財務諸表及び主な注記	
	(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
	四半期連結損益計算書 .....	7
	四半期連結包括利益計算書 .....	8
	(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
	(継続企業の前提に関する注記) .....	9
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
	(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
	(セグメント情報等) .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2018年1月1日～9月30日、以下「当第3四半期」）、国内の清涼飲料市場は地震や台風等の災害による影響を受けたものの、猛暑により急増した需要に支えられ、前年同期比若干増で推移したものと見込まれます。健康食品および化粧品市場におきましては、消費者の健康志向やインバウンド需要の継続等により市場の拡大傾向は続いていますが、消費者ニーズに対応した各社の積極的な製品導入もあり、激しい競争環境は継続しております。

当社においては、平成30年7月豪雨により、広島県三原市の本郷工場と、隣接の物流拠点が浸水し、設備や在庫等が被害を受けました。さらに他の一部製造・営業拠点ならびに販売機器、車両等にも浸水被害が発生し、物流インフラが寸断されました。これらの被害に加え、上期からのビジネストレンドの影響等を加味し、2018年10月10日付で通期業績予想を修正いたしました。

このような環境において、当第3四半期の業績は以下のとおりとなりました。当社代表取締役社長 吉松民雄は当第3四半期の業績を踏まえ、「今年が私たちにとって厳しい年であることは事実です。平成30年7月豪雨による被害からの復旧には一定の時間を要すると考えておりますが、必要な投資を行い、引き続き、長期にわたって持続可能な成長を実現できる会社を目指してまいります。」と述べています。

なお、2018年11月12日（月）午後1時30分より開催の決算説明会資料を当社ホームページ(<https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php>)に掲載しておりますので、本決算短信の定性的情報と併せてご参照ください。

ハイライト

- ・平成30年7月豪雨の被害や上期からのビジネストレンド継続の影響等を踏まえ、通期業績予想を修正。災害による損失79億円を特別損失に計上。
- ・当第3四半期、飲料事業の販売数量は、プロフォーマ比較で前年同期比2%減。被災による製造能力の喪失やこれに伴う当社エリア全域にわたる製品供給体制見直し、アセプティック（無菌充填）新製品の需要急増による製品供給制約等の影響を受ける。
- ・当第3四半期の連結売上高は経営統合の影響により、前年同期比15%増。プロフォーマ比較では、飲料事業における販売数量減少やチャンネル・パッケージミックス悪化により3%減。
- ・当第3四半期の連結営業利益は、輸送費等のコスト増、チャンネル・パッケージミックス悪化の継続に加え、経営統合によるのれん償却費等の増加により前年同期比17%減。プロフォーマ比較では、これらの影響に加え売上高の減少もあり20%減。
- ・株主価値向上に向けた財務戦略：上期に実施した自己株式（発行済株式総数の8.28%）の公開買付けに加え、さらに250億円の自己株式取得計画を発表。
- ・中国エリアの製造能力の回復と需要の急増に対応した製造能力強化を優先課題と認識し、製造能力の段階的な拡張を推進。被災した本郷工場は移転し、三原工場（仮称）として2020年春の再稼働を目指す。  
\*プロフォーマ：2017年1月1日に経営統合したと仮定し、前年同期の実績を当第3四半期と同様の基準で見積もったもの。

業績の概要

（単位：百万円）

	2017年 第3四半期 (1-9月)	2018年 第3四半期 (1-9月)	増減率
売上高	645,088	741,254	+14.9%
営業利益	38,606	32,016	△17.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,797	13,936	△41.4%

\*2017年の業績は、第1四半期までは経営統合前のコカ・コーラウエスト株式会社の業績、4月以降は当社の業績です。

当第3四半期の連結売上高は741,254百万円（前年同期比96,165百万円、15%増）となりました。飲料事業では、2017年4月1日を効力発生日としたコカ・コーラウエスト株式会社とコカ・コーライーストジャパン株式会社の経営統合の影響等により、売上高は720,100百万円（前年同期比97,263百万円、16%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業は、新製品の寄与があったものの、競争激化等により、既存製品が軟調だったことから、売上高は21,153百万円（前年同期比1,097百万円、5%減）となりました。

連結営業利益は32,016百万円（前年同期比6,589百万円、17%減）となりました。飲料事業では、平成30年7月豪雨被害等による供給体制見直し、アセプティックの新製品の需要急増に伴う製品供給制約、チャネル・パッケージミックス悪化の継続に加え、経営統合によるのれん償却費等の増加により、営業利益は29,448百万円（前年同期比6,892百万円、19%減）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業では、主に低効率の広告宣伝費を削減したこと等により、営業利益は2,567百万円（前年同期比302百万円、13%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、平成30年7月豪雨による設備、在庫等への被害を災害による損失7,945百万円として特別損失に計上したこと等により、13,936百万円（前年同期比9,861百万円、41%減）となりました。

(参考) プロフォーマ業績の概要

2017年1月1日に経営統合したと仮定し、前年同期の実績を当第3四半期と同様の基準で見積もった、プロフォーマ業績は次のとおりであります。

	(単位：百万円、販売数量を除く)		増減率
	2017年 第3四半期 (1-9月)	2018年 第3四半期 (1-9月)	
売上高	764,029	<b>741,254</b>	△3%
営業利益	40,131	<b>32,016</b>	△20%
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,389	<b>13,936</b>	△43%
飲料事業 販売数量（百万ケース）	403	<b>395</b>	△2%

\*飲料事業の販売数量にアルコール飲料は含みません。

当第3四半期の連結売上高はプロフォーマ比較で22,774百万円、3%減となりました。平成30年7月豪雨で被災した本郷工場の製造能力喪失やアセプティックの新製品需要増による供給制約が特に第3四半期（7-9月）に大きく影響したことに加え、チャネル・パッケージミックス悪化が続き、飲料事業の販売数量は前年同期比2%減、売上高は3%減少いたしました。営業利益は、売上高の減少に加え、飲料事業における豪雨被害に伴う製品供給体制見直しによる輸送費の増加、チャネル・パッケージミックス悪化、販促費（DME）や経営統合によるのれん償却費等の経費増等により、プロフォーマ比較で8,115百万円、20%減となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、災害による損失7,945百万円を特別損失として計上したこともあり、プロフォーマ比較で10,452百万円、43%減となりました。

飲料事業におけるチャネル別販売数量（増減率は前年同期比）は、新製品の効果もあり、ドラッグストア・量販店チャネルは2%増、コンビニエンスストア（CVS）チャネルは1%増となりました。CVSは水を除く主要カテゴリーで成長し、またスーパーはSKU数の調整や第3四半期（7-9月）にチラシ販促の中止を依頼したこと等の影響もあり、チャネル全体では減少した一方で、無糖茶、炭酸、コーヒーが成長しました。ベンディングチャネルは特に第3四半期の供給制約やお得意さま優先の営業活動の影響を大きくうけたこともあり、8%減となりました。製品カテゴリー別では、炭酸飲料が3%増、無糖茶が前年並、コーヒーが5%減、スポーツが4%減、水が11%減となりました。コーヒーは缶・ボトル缶の減少、「ジョージア ジャパンクラフトマン」のベンディングでの導入遅れ等から、ベンディングチャネルでの減少が継続しましたが、ベンディングを除くとコーヒーの販売数量は1%増加しております。水は「い・ろ・は・す」の天然水が成長したものの、前年の新製品の反動の影響を受けた「い・ろ・は・す」のフレーバーウォーターや大型サイズの「森の水だより」の減少により、カテゴリー全体では減少しました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期末の財政状態は次のとおりです。

総資産は、835,541百万円となり、前連結会計年度末に比べ48,377百万円減少しました。これは主に商品及び製品、原材料及び貯蔵品等が増加した一方、上期に実施した自己株式の取得に伴い、現金及び預金、有価証券等が減少したことや、災害により設備等が被災した影響等によるものです。

負債は、258,992百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,560百万円増加しました。これは主に、商品及び製品、原材料及び貯蔵品等の増加等により、支払手形及び買掛金が増加した一方、退職給付に係る負債や長期借入金が減少したこと等によるものです。

純資産は、576,548百万円となり、前連結会計年度末に比べ50,937百万円減少しました。これは主に自己株式の取得によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年12月期通期の業績予想につきましては、2018年10月10日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	101,858	51,743
受取手形及び売掛金	69,266	79,655
有価証券	17,000	—
商品及び製品	54,357	62,318
仕掛品	267	580
原材料及び貯蔵品	7,323	9,526
その他	36,277	45,737
貸倒引当金	△376	△632
流動資産合計	285,974	248,930
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	73,145	69,853
機械装置及び運搬具（純額）	67,382	58,896
販売機器（純額）	111,800	114,343
土地	151,375	152,097
建設仮勘定	591	3,661
その他（純額）	5,897	5,429
有形固定資産合計	410,192	404,281
無形固定資産		
のれん	76,557	73,166
契約関連無形資産	50,098	48,146
その他	14,437	13,566
無形固定資産合計	141,092	134,878
投資その他の資産		
投資有価証券	31,792	32,039
退職給付に係る資産	257	295
その他	15,567	16,336
貸倒引当金	△958	△1,221
投資その他の資産合計	46,659	47,450
固定資産合計	597,944	586,610
資産合計	883,918	835,541

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,496	48,883
1年内返済予定の長期借入金	1,817	1,606
未払法人税等	8,356	7,733
未払金	55,410	56,041
販売促進引当金	427	491
賞与引当金	2,521	6,401
役員賞与引当金	134	33
その他	17,193	12,751
流動負債合計	126,357	133,944
固定負債		
社債	66,000	66,000
長期借入金	12,031	10,541
退職給付に係る負債	20,358	18,524
業績連動報酬引当金	—	80
役員退職慰労引当金	30	23
環境対策引当金	90	90
その他	31,563	29,787
固定負債合計	130,075	125,048
負債合計	256,432	258,992
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	450,568	450,561
利益剰余金	155,535	160,298
自己株式	△4,692	△60,636
株主資本合計	616,642	565,455
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,886	7,084
繰延ヘッジ損益	590	407
為替換算調整勘定	12	12
退職給付に係る調整累計額	2,926	3,147
その他の包括利益累計額合計	10,416	10,651
非支配株主持分	426	440
純資産合計	627,485	576,548
負債純資産合計	883,918	835,541



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
売上高	645,088	741,254
売上原価	310,837	358,692
売上総利益	334,250	382,561
販売費及び一般管理費	295,644	350,545
営業利益	38,606	32,016
営業外収益		
受取利息	15	2
受取配当金	278	292
不動産賃貸料	246	300
有価物売却益	246	522
その他	232	290
営業外収益合計	1,019	1,409
営業外費用		
支払利息	401	409
持分法による投資損失	37	153
固定資産除却損	757	1,245
その他	553	420
営業外費用合計	1,749	2,229
経常利益	37,876	31,196
特別利益		
固定資産売却益	369	—
投資有価証券売却益	16	91
子会社株式売却益	—	388
段階取得に係る差益	188	—
特別利益合計	574	480
特別損失		
災害による損失	—	7,945
経営統合関連費用	721	—
特別損失合計	721	7,945
税金等調整前四半期純利益	37,730	23,730
法人税、住民税及び事業税	12,934	13,459
法人税等調整額	1,014	△3,692
法人税等合計	13,949	9,766
四半期純利益	23,780	13,963
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,797	13,936

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	23,780	13,963
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,959	197
繰延ヘッジ損益	508	△182
為替換算調整勘定	18	△0
退職給付に係る調整額	440	224
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△3
その他の包括利益合計	2,926	235
四半期包括利益	26,707	14,199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,724	14,171
非支配株主に係る四半期包括利益	△16	27

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年2月21日付の取締役会決議に基づき、公開買付けを取得方法として自己株式17,075,239株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が55,921百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が60,636百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自2017年1月1日至2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	622,837	22,251	645,088
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	622,837	22,251	645,088
セグメント利益	36,341	2,264	38,606

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	720,100	21,153	741,254
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	720,100	21,153	741,254
セグメント利益	29,448	2,567	32,016

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

第1四半期連結会計期間より、事業内容をより適正に表示するため、従来の「清涼飲料事業」のセグメント名称を「飲料事業」に変更しております。

なお、セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。